

小山内 薫（おさない・かおる）

1、プロフィール

演劇の指導者として情熱をもって 30 年間劇壇に活動が続けた。自由劇場や築地小劇場の創設に携わり、小説家としても名を成し、また映画界に多大の影響を与えた。

<生没>

1881(明治 14)年7月 26 日 ~ 1928(昭和3)年 12 月 25 日

<代表作>

詩集『小野のわかれ』

小説『大川端』

戯曲「第一の世界」「息子」「西山物語」「亭主」「森有礼」「国性爺合戦」

<青森との関わり>

父小山内健は、旧津軽藩士、陸軍一等軍医正であった。秋田雨雀や北村小松に影響を与えた。

2、作家解説

演出家、劇作家、演劇評論家、詩人、小説家。鸚鵡公、富士見小僧などの別号あり。

広島市の陸軍衛戍病院長である父小山内健(旧津軽藩士)の長男として生まれた。2歳下の妹に後の岡田八千代がいる。父の死を契機に東京に移住。第一高等学校文科から東京帝国大学英文科に入学。学生時代より演劇に興味を持ち、戯曲を発表するほか、詩集『小野のわかれ』を発表している。

大学卒業後、島崎藤村らとイプセン会を組織、第一次「新思潮」に記録を載せた。こうした中で新しい演劇への道を目指して市川左団次とともに自由劇場を始めた。第1回の試演は 42 年 11 月で薫が演出した。自由劇場の試演は第9回(大正8年9月)で終わる。

43 年から慶応大学文科の講師を勤める。7年市村座の幕内顧問に就任。9年には松竹キネマに入社しているが、この間にも自作「第一の世界」などを演出、舞台活動を続けている。

12 年9月の関東大震災後に、土方与志らと図って築地小劇場を作った。上演には初め翻訳劇が多かったが、後には創作劇も加えられた。その中には、薫の演出で青森県出身の秋田雨雀や北村小松の作品が上演されている。

昭和2年11月、ロシア革命10周年記念祭に国賓として招待される。この頃より健康おもしろからず、翌3年12月、48歳で亡くなっている。

『小山内薫全集』全8巻、『小山内薫演劇論全集』全5巻がある。

3、資料紹介

○自由劇場ポスター

印刷資料(ポスター;布製)

明治末期～大正中期

660mm×340mm

小山内薫は市川左団次と組んで自由劇場を組織し、9回の試演を試みたが、その当時のポスターとして貴重なものである。